****

隔週刊「７７歳が送る農業文化マガジン『電子耕』　第９５-2 号
−健康・農業・食・図書・人物情報・高齢者と若者の交流誌−
http://nazuna.com/tom/
２００２．１０．３１（木）発行 西東京市・ひばりが丘　原田　勉
**********発行部数 1838 部**********

＜キーワード＞

　健康・食べ物・農林園芸・図書を中心とした雑学情報を提供し、庶民の歴史も残す。高齢者と若者の交流ミニコミ誌。お互いに情報を交流しましょう。

□　目　次　　□----------

★読者の声は 95-1 号に掲載しています。
＜高知新聞、東奥日報に『メールマガジンの楽しみ方』が紹介＞（編集部）
＜舌耕のネタ＞「食の安全と生産者・消費者の自己責任」原田　勉
＜医療情報＞サリドマイドを骨髄腫の治療薬に要望「日本骨髄腫患者の会」
＜農業図書情報＞新刊案内「耕」NO.94「食の安全と安心を問う」他 小泉浩郎
＜山崎農業研究所・情報＞体制の変革と今後の運営について
＜日本たまご事情＞「花の祭典」フロリアード　　愛鶏園　斎藤富士雄
＜森　清の読書感＞高野悦子『母　老いに負けなかった人生』文芸春秋刊
＜農文協図書館情報＞　2002.10.26　更新情報
＜2001 年 10 月の購読者急増の主因が判明＞（編集部）
＜私の近況報告＞１０月１６ー３０日。

＜高知新聞、東奥日報に『メールマガジンの楽しみ方』が紹介＞編集部

高知新聞、東奥日報に『メールマガジンの楽しみ方』
http://nazuna.com/tom/book.html
が紹介されました。

共同通信社
http://www.kyodo.co.jp/
から小川明編集委員が書かれた「７７歳の熱中物語」「メールマガジンの楽しみ方」が配信され、
東奥日報（１０月２０日付け表紙の写真付き）
http://www.toonippo.co.jp/
高知新聞（１０月２３日付け）

http://www.kochinews.co.jp/
、に載りました。岩波アクティブ新書の表紙つきです。小川さんの話では写真入りで配信したが、地方紙で選択するので、載ってみないとわからない。東京では、探すのが手間かかるが１０紙くらいは出るのでは、という話でした。遅くなるが手に入ったらまた送るとのことです。

＊ネット検索結果から

■■　俺のメルマガ　■■
メルマガ・ドランカーの俺
そんな俺がお気に入りのメルマガを厳選して紹介します。
http://isweb45.infoseek.co.jp/computer/akira39/

の作者さんが 2002/10/20 第５４回で購入されたと書かれています。

メルマガ・ドランカーとは
毎日、大量のメルマガを受信して、読まなければ気がすまない人。
またメルマガをものすごく愛する人。

だそうです。是非感想が聞きたいものです。

■■　ちゃむ猫ブックコレクション　■■
http://chiba.cool.ne.jp/bookcham/indexmain.html
おすすめ度四つ星の書評をいただいております。

YOMIURI BOOKSTAND(2002 年９月２日）新刊紹介
http://www.yomiuri.co.jp/bookstand/new/0902_112.htm

新着図書案内が載った図書館サイト

福岡大学図書館
http://www.lib.fukuoka-u.ac.jp/~camp/newpage5.htm

姫路市立図書館
http://www.library.city.himeji.hyogo.jp/

千葉県匝瑳郡光町図書館
http://www.library.hikari.chiba.jp/

その他
図書検索サービス「Webcat Plus」
http://webcatplus.nii.ac.jp/
によると
金沢星稜大、大信愛、帝塚院大泉ヶ丘、東北福大の各図書館に所蔵されたことがわかります。

＜舌耕のネタ＞「食の安全と生産者・消費者の自己責任」原田　勉

私はガンを告知されてからずいぶん悩みました。抜け出すのに半年かかりました。克服する途は精神的なものと身体的なものがあります。精神的にはメルマガで公表して、読者の皆さんに助けて貰いました。
http://www.mainichi.co.jp/eye/hito/200109/01-1.html

身体的なものは「日本骨髄腫患者の会」という団体の情報をＭＬ（メーリングリスト）で病気のことを知り、どんな症状がでたらどう対応するかおおよそのことは解りました。これは自己責任だと悟りました。

同じことが、日常の食べ物にも言えると思いました。

「食の安全と生産者・消費者の自己責任」の良い例が山崎農業研究所の２７回山崎記念農業賞を受けた農事組合法人「和郷園」という農産物販売組織です。
http://www.farmersnet.net/user/wagou/
詳しくは「耕」９４号（別項参照）にありますが、２、３の例を紹介します。

千葉県香取郡山田町に本部のある生産者会員５１人協力会員３０人の組合です。生産者には作付け契約で安全管理システムを勧め、年に２回肥料や農薬の使用状況を提出してもらい、その情報を生産物と一緒の消費者に届ける。

消費者には、野菜４５品目と卵などを生協５割、外食産業３割などを通じて供給している。それも１業者に総売上の２０％は超えない。つまり１社に集中して流通業者の言いなりにならないことだ。最近多くの偽装問題はここから起こっている。それを避けるためだ。

もう一つ冷凍ホウレンソウも作っているが、中国産と違うのはうま味が違う。中国の場合は人海戦術で何度もホウレンソウに人の手が加わる。洗浄やカットやパッケージの段階で慣れない人たちが何度も触るとだんだんうま味が落ちてしまう。だから和郷園では、外国人労働者は安くても使わない。地域内の熟練したパートさんにお願いしている。

これは１例にすぎないないが、食の安全は、生産者も消費者も産地から流通までの情報を充分知るということから、自分の身を守る自己責任が生まれるのではないでしょうか。

＜医療情報＞サリドマイドを骨髄腫の治療薬に要望「日本骨髄腫患者の会」

１０月２８日、サリドマイドをガンの治療薬として個人輸入を代行している「日本骨髄腫患者の会」では、厚生労働省に対して、「多発性骨髄腫の治療薬であるサリドマイドの承認」を求めて要望書を提出した。

（趣旨）サリドマイドは多発性骨髄腫の有効な治療薬であり、その事実は国内外の医学会で承認されている。しかし日本では製薬会社からの承認申請がないため、未承認である。その結果日本では、サリドマイドによる治療で助かるはずの多発性骨髄腫の患者が数千人規模で死亡していると思われる。
また、薬害を繰り返さないための特別措置をとるよう国に求めた。

同じ日午後２時から記者会見が行われた（原田も患者の一人として参加)。
記者会見の模様：デジカメ撮影　原田勉
http://nazuna.com/tom/20021028press/page0001.htm

同会事務局の大久保幾久美さんは「厚生労働省から承認の申請をしてくれる製薬会社を見つけるように言われた。サリドマイド被害者の訴えを無視してはいけないが、この薬を使わないと死んでしまう人がいることを製薬会社に分かってほしい」と訴えた。

私も参加して感じたことは、多くの新聞・テレビ局の記者が多発性骨髄腫についての知識がなく、会見のあとも質問が多く控え室で３０分も続けられた。それも、初歩的なものから専門的な文献について多くの要求があった。

もう一つ日本の医療行政がアメリカなどに比べて立ち後れていること。患者自身が自己責任において問題解決に当たらねばならないこと。そのためには情報交換してお互いに団結し、行政や医療関係者に要求して行かねばならないことを痛感した。

私は、告知されて１年半だが、まだ観察中で抗癌剤やサリドマイドの治療経験はないが、会見のあと、日比谷公園でお茶を飲みながら「日本骨髄腫患者の会」の会員の体験交流を聞いて大変勉強になったと感謝している。

「日本骨髄腫患者の会」
http://www.myeloma.gr.jp/

毎日インタラクティブから（短期掲載）
［毎日新聞１０月２８日］（2002-10-28-20:22）【須山勉記者】
サリドマイド：「骨髄腫治療薬の承認を」患者の会が要望
http://www.mainichi.co.jp/news/flash/shakai/20021029k0000m040059000c.html

読売オンラインから（短期掲載）(10 月 29 日 00:02)
サリドマイドを骨髄腫治療薬に、患者の会が要請
http://www.yomiuri.co.jp/04/20021028ic48.htm

＜農業図書情報＞新刊案内「耕」NO.94「食の安全と安心を問う」他 小泉浩郎

山崎農業研究所機関誌「耕」2002 秋Ｎｏ.94 号（５６頁、1,000 円）を刊行しました。項目だけですが紹介します。

余部があります。k.koizumi@taiyo-c.co.jp　へお知らせください。

中村広次：「農地行政の稚拙な転換で禍根を残すな」

１）言葉だけ先行、踊っている「食と農の再生プラン」
２）いかがわしい企業の農業への参入意図
３）家族経営と企業経営では、そろばんの置き方が大きく違う
４）耕作者主義の否定につながりかねない農業生産法人のさらなる要件緩和

５）農地の転用に拍車をかけそうな新たな土地利用の仕組み
６）家族経営が成り立ち、正常に発展できる農政の再構築

森　巌夫：「社会的共通資本としての森林の保全」
１）現代の「森林ブーム」の諸相
２）国土の特徴と社会的共通資本としての森林
３）高度成長と森林の荒廃
４）森林・林業基本政策の転換
５）国民参加による森林づくり

山崎農業研究所会員総会（２００１年度）・山崎記念農業賞（第２７回）
熊沢喜久雄所長挨拶「状況は厳しいが特色ある活動の灯を点しつづけよう」に続いて活動報告、活動計画が報告・提案され了承された。

山崎記念農業賞は、
「千葉県・農業組合法人『和郷園」
http://www.farmersnet.net/user/wagou/
（代表：木内博一氏）に贈呈された。

木内博一：山崎記念農業賞を受賞して
１）３Ｋ時代に就農
２）自分で作ったものは自分で売る
３）産直をベースに可能性を追求
４）基本理念は個々の自立

シンポジューム：「現場から食の安全と安心を問う一循環農業とトレーサビリテイ」
消費者優先の合唱の中で農業者不在、
生産者の犠牲が隠蔽されていないか。

小泉浩郎　司会のもと木内博一（和郷園）・佐藤正史（和郷園）土屋孝治（らでっしゅぼーや（株）・古野雅美（森とむらの会）・田村久子（有機農産物普及・堆肥化協会）らで活発に論議する。

原田　勉：山崎農研からから生まれた岩波新書「メールマガジンの楽しみ方」

定点観測：「秋田県種苗交換会史」編纂を終えて」（秋田・阿部）、
「今、シルバーセンターが面白い」（山形・大河原）苦労を超えた
楽しさを超えた苦労ーカネでない価値を体験する」（茨城・鈴木）
「わが町の農業ー和郷園はわが町にある」（千葉・菅谷）、
「相続税納税猶予の農地認定」（千葉・染谷）
「耕作放棄」（橋渡）、
「国産材産直住宅の選択理由」（福岡・佐藤）

随　想　等：「トンボを追いかけて５０年」新井　裕、
「蕪村随想補遺２」井上喜一郎、
「明治用水１２０年」安保文夫、
「聖域なき構造改革」相原昭夫

＜山崎農業研究所・情報＞体制の変革と今後の運営について

（株）山崎農業研究所を改組して収益部門を（株）太陽総合研究所とする。従来の会員研究会活動は、任意団体の山崎農業研究所で続ける。役員・事務局は非常勤、無給とする。「耕」は年４回、研究会は年５回を目標とし、年会費は変わらず、などを９月の総会で決定した（詳しくは「耕」９４号総会報告）。

『電子耕』の発足以来、研究速報を続けてきたが、若干の規模縮小をする事となった。しかし、同研究所では今後ホームページの充実で農業情報を送るよに検討中である。

「山崎農業研究所」
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_frame.htm

＜日本たまご事情＞「花の祭典」フロリアード　　愛鶏園　斎藤富士雄

原田先輩
本屋の店先に「メールマガジンの楽しみ方」がうずたかく積まれていると、こちらまで嬉しくなってしまいます。
私の住む岡部町の教育長をされてる畠山先生がそれを読まれて感動され先輩宛のメールを書かれたのだと思います。

＜日本たまご事情＞が＜ぶらぶらリハビリ旅物語＞になってしまいました。

　”花の祭典”フロリアード

ぶらぶら旅も終わりに近づいてまいりました、オランダの”花の祭典”フロリアードで締めくくりましょう。
この国は小さい国なのですが、やることはでっかいのです。”花の祭典”は十年に一度の開催で今回が５回目ですから、もうかれこれ４０年間これを続けていることになります、それも毎回場所を変えての催し物です。

今年はオランダの空の玄関口、スキポール空港よりバスで２０分で、世界中の人達がとても訪れやすい農村地帯のど真ん中です。使用されている土地の広さは丁度１８ホールのゴルフ場くらいでで約８０町歩あります。
今年のテーマは”Feel the art of nature"で大きな湖を中心に出来るだけ自然の状態を生かした設計になっています、十年がかりで会場をつくるものですからそりゃ一本格的なものです、ちなみにこのフロリアードの呼び物である温室は１００Ｍ＊２７８Ｍの巨大なもので、サッカー場四つがはいる大きさです。
ここは園芸、造園,野菜、、その他農業関係の人たちにとっては、商売の種をみつける格好の場所ですが、都会の一般の人たちにとっては一日をゆっくりできるピクニックの場所でもあります。たまご屋の私にとっても最新式の野菜工場はとても刺激的でした。

過去１０年、２０年、日本がバブルに浮かれて、あちこちにゴルフ場を造りまくっていた時に、オランダはこのような地味な仕事をしていたのです。この国は優れた工業国であると同時にすぐれた農業国です、周辺の豊かな農業国に比べオランダは条件が良くありません、それを優れた智恵でカバーしているのです。日本は優れた工業国ではありますが、残念ながら農業はお荷物と言われかねません、日本の農業者がオランダに学ぶこと大です。脳卒中のリハビリで仕事から離れてぶらぶら遊んでくるつもりが、いつのまにかまた悪い癖が出て、仕事をしたくなりました、用心,用心。

齋藤　富士雄
（株）愛鶏園
http://www.ikn.co.jp/

＜森　清　の読書感＞高野悦子『母　老いに負けなかった人生』文芸春秋刊

高野悦子『母　老いに負けなかった人生』文芸春秋、2000 年 9 月
http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=00038820

日野原重明医師との共著『病んでこそ知る　老いてこそ始まる』（岩波書店）を著わした岩波ホール総支配人高野悦子さんの旧著を読んだ。

1995 年に 96 歳で亡くなった高野柳の生涯を描きながら、介護の問題、自身の病気のことなどを書き尽くしている。

母柳は、布施行の人であった。
女子高等師範学校を卒業して教員として働き始め、給料が生活するには多いからと何人かの人に奨学金を出したという。どうして貯蓄しようとしなかったのか。不思議な人だ。

その奨学金を受けていた三歳年下の学生高野與作と結婚し、夫に尽くしてその知友に物心にわたる世話をした。
戦後しばらくしては、中国残留孤児に寄付をし続けた。　そうして、病床に臥してからは見舞いにくる人たちにお小遣いを渡す。それも茶封筒に入れた１０万円をという具合である。
決して財閥のお嬢様ではない。それでも布施して飽きなかったらしい。

『青鞜』を読む少女時代を送り、しかし夫が満州に職を得るや教職を辞して渡満、その頃の夫は給料は全て飲み明かすという家を守って三人の姉妹を育てた。
履歴からは旧時代の忍従の女性像を得るけれども、家事で夫と三人の子らに布施行をして人として生きたようである。７０歳の頃からほとんど横になって過ごすようになり、しかし夫の全心霊を費やしての世話で静かな日々を過ごした。それでも８１年に夫が先に逝った後、しばらくして病に倒れ、３年ほどして痴呆症となった。
末娘の悦子に世話になりながら、幸いにして悦子の「説得ではなく納得」の介護という開眼に恵まれて痴呆も和らぎ、９６歳で逝去する日まで明晰で「自信と威厳に満ちた」顔で逝く幸いを得た人である。

悦子さんは、母が教師を辞めてのち自分の人生を生きられなかったのではと

思いやるけれども、よくよく考えると母は母なりに見事に人生を生き抜いたと覚るようになる。特に自分には最高の教育者であったと知るのである。

映画人として日本で有数の仕事を成し遂げている高野悦子は、それができたのは時に激励し、いたわり、あるいは喜びを布施してくれた母の力であったと偲ぶ。　この本は、「私は母と共に生きている。この思いは、いつも私に勇気と喜びを与えてくれる」と結ばれている。本当の布施とはそのような思いをもたらせてくれるものである。

柳さんは、悦子の家に現金が無くなるかという時分に逝ったという。葬儀の費用を払ったら現金は終わっていた。始末のよい人だったのだ。

この本『母』が店頭に並んだ頃の 2000 年 9 月 26 日、悦子さんはにわかに倒れて父母が共に世話になった病院に担ぎ込まれた。
それからのことは、日野原との共著に詳しい。二冊を合わせて読むことで病、老いへの対処、人生の創り方がよく分かる。

追記　私は 2001 年 12 月の 5 刷本で読みました。まだ文庫にはなっていないようです。

森　清
http://homepage2.nifty.com/morikiyoshi/

＜農文協図書館情報＞　2002.10.26　更新情報

＊遠隔地の方は地元の公共図書館や大学図書館の受付を通じて貸出し申込みをすることができる場合もあります。開架書架の貸出可能書籍に限ります。最寄りの図書館にご相談ください。
当館からの送料は無料です。

連絡先：
財団法人　農文協図書館
〒177-0054 東京都 練馬区 立野町 15-45
TEL 03-3928-7440 FAX 03-3928-7441

蔵書検索の手引きは
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/help/
をご覧ください。

2002.10.26　更新情報です。WEB をご覧ください。

◆9 月新規収蔵図書
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/01new.html
◆ニュース　近藤康男理事長のホームページから本が生まれました
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200210/news1.html
◆菱沼達也文庫目録新設しました
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/081hishinumabunko.html
◆大谷省三文庫目録新設しました
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/082ootanibunko.html
◆岩崎文雄文庫目録新設しました
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/085iwasakibunko.html

＜2001 年 10 月の購読者急増の主因が判明＞（編集部）

『電子耕』は 2001 年 10 月 11 月に購読者が約 500 部急増しましたが、当時マスコミ掲載もなく、大変不思議でした。
最近あらためて過去メールを検索したところ、当時３７０万部発行のウィークリーまぐまぐ 2001/10/24 号◆◆まぐまぐ読者さんの本棚☆第 33 回◆◆に掲載されたのが判明。これが主因と思われます。（その他、藤本さんの講義の成果もあったと思います。）

いつも投稿もいただいている読者の Ya-san さんのお陰です。その節はありがとうございました。

★ここから引用
=== Weekly Mag2 ========== 3,706,520 部発行 ==
ウィークリーまぐまぐ 2001/10/24 号
==========
（中略）

◆◆まぐまぐ読者さんの本棚☆第 33 回◆◆
このコーナーでは、読者さんが選んだお気に入りマガジンをご紹介します。
（みなさんのお気に入りも募集中ですー）

【今週の読者さん：Ya-san さん／30 代／男性／求職中】コメント:(Y)

●イカサマ巨人ニュース （毎週月曜日）
http://www.mag2.com/m/0000054046.htm
（Y）J リーグや大リーグ人気に押されて、どんどん人気がなくなっていく日本のプロ野球。このままではいけないとプロ野球を真に愛する者が立ち上がった。だけどプロ野球の問題を真剣に考えるほど、なぜかアンチ巨人になってしまうから不思議です。みんなで読んでプロ野球を改革しよう。
（編）「なぜ近鉄優勝が放映されないのか」「ドームランを追う」などなど。

●76 歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 （隔週刊）
http://www.mag2.com/m/0000014872.htm
（Y）年配の著者が農業のこと、社会のことをたいへんにまじめに綴られています。たいへんに頭の下がる思いです。ただ少し長いのが難点。
（編）農業を中心に、食べ物や健康のことなど。読者投稿による交流も。

読者さんの本棚募集中！ 下記項目をご記入の上 magrack@mag2.com にメールしてね。
みなさんがまぐまぐで読者登録しているメルマガの中から、特にお気に入りのマガジンを３誌選んで教えて下さい。

ハンドルネーム：
なにをしてる人か（だいたいでけっこうです）：
年齢（20 代、30 代などでＯＫ） ：
性別：
お気に入りメールマガジン３誌のタイトル・マガジン ID：
３誌それぞれに気に入っている理由、感想、活用方法など（必須ですよー）
（後略）

★ここまで引用

＜私の近況報告＞１０月１６ー３０日。

１０月１６日、友人井上喜一郎が音頭をとり、出版を祝う会を催して下さる。松坂正次郎夫妻・山田民雄夫妻、井上完二夫妻と原田夫婦は日本橋紅葉川で会食する。松坂先輩と私が７７歳なので、喜寿の祝いを兼ねて。年に１度は清貧の会と称して１泊旅行をつづけているが、ここまで付き合ってくださるクラスメートは稀で、いつも率直な意見の交換は有り難い。

１７日、『メールマガジンの楽しみ方』の反響が続いている。メルマガの発行者から来たメールは初めてだった。＜読者の声＞の欄に掲載している。

１９日、東京農工大学同窓会東京支部総会で、事務局が私の本を普及すると１０部注文してくれる。

２２日、通院日、今月から高齢者も１割負担になる。検査結果はまあまあだから良いとするか。午後＜体にやさしい鍼灸のはなし＞の山下さんに鍼をして貰う。これが私の免疫力強化になっている。反応は電車の中でも眠たい。これは良い兆候である。これで、もう１週間楽しく働ける。
山下鍼灸院
http://nazuna.com/tom/yamashita-ac/

２３日、近藤康男先生の原稿完成、全農林に送る。中国農政の中心的指導者「杜　潤生先生」に、近藤康男『三世紀を生きて』を贈呈するため、「中国農業の発展を祝す」とサインして農文協坂本専務に託す。

２７日、家族４人で山梨・石和温泉に湯湯治にゆく。
http://www.kampo.kfj.go.jp/sisetsu/yado/2152/index.html

２８日、日本骨髄腫患者の会が厚生労働省に「サリドマイドを治療薬として承認する」ように要望書を提出。午後２時からの記者会見に患者として参加する。患者１４人の中の１人。感想は前述の通り。

ーＰＲ――――――――――――――――――――劇団文化座――――――――
■■■■　　憎しみの連鎖を断ち切るのは
■■■□　　その涙のひとしずくかも知れない。
■■□□　　鈴木光枝から佐々木愛へ。

■□□□　戦争と人間の真実が、いま受け継がれます。
□□□□
□□□□　　朗読劇　『あの人は帰ってこなかった』
□□□□
　菊池敬一・大牟羅良編「あの人は帰ってこなかった」（岩波新書）
　岩手県農村文化懇談会編「戦没農民兵士の手紙」（岩波新書）より
□□□□
□□□□　構成／堀江安夫・演出／佐々木雄二
□□□□
http://bunkaza.com/
★東北公演日程
http://bunkaza.com/play/anohito/local.html
―――劇団文化座――――――――――――――――――――――――ＰＲ―――

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』
著者：原田　勉　定価：本体７００円＋税　発行日：０２年１０月４日
発行所：岩波書店　ISBN4-00-700045-X
まえがき・目次・著者紹介・注文方法
http://nazuna.com/tom/book.html

『電子耕』から大切なお知らせ

■山崎農研発行の書籍のご案内
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_books.htm

●協力をいただいているサイト紹介コーナー
「農文協ルーラルネット」
http://www.ruralnet.or.jp/
「山崎農業研究所」
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_frame.htm
「劇団文化座」
http://bunkaza.com/

「77 歳の伝記ライター 原田 勉」ホームページ制作管理
internet SOHO なずなコム
http://nazuna.com/

■ご意見・ご感想は、Ｅメール
mailto:tom@nazuna.com
または、電耕掲示板
http://6201.teacup.com/tom/bbs?
までお願いします。

●メール送付の際のご注意案内↓
http://nazuna.com/tom/denshico.html#mail

『電子耕』は、２つのルートで配送しております。
　　『まぐまぐ(ID=14872)』
http://www.mag2.com/
　　『Macky !(ID=1283)』
http://macky.nifty.com/

★SPECIAL THANKS to INTERNET JAH
http://www.jah.ne.jp/

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
　　隔週刊「77 歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」　　第 95-2 号
バックナンバー・購読申し込み/解除案内
http://nazuna.com/tom/denshico.html
2002.10.31（木）発行　　西東京市・ひばりが丘　　原田　勉
mailto:tom@nazuna.com
発行部数 1838 部 **********ここまで『電子耕』*******